

文部科学省

地(知)の拠点

平成26年度採択 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」
青森ブランドの価値を創る地域人財の育成
平成26年度 事業成果報告書

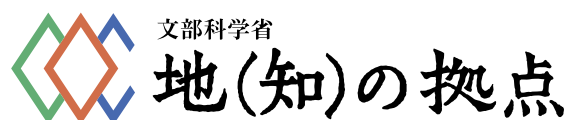


弘前大学



文部科学省

地(知)の拠点



平成26年度採択 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」

青森ブランドの価値を創る地域人財の育成

平成26年度 事業成果報告書





文部科学省

地(知)の拠点

目 次

学長 挨拶	1
COC推進室長 挨拶	2
COC推進室副室長 挨拶	3
「地域志向」大学改革宣言(学長宣言)	4
1. 事業概要	7
2. 実施体制	11
3. 教 育	17
4. 研 究	25
5. 社会貢献	31
6. シンポジウム	37
7. 関連イベント	55
8. 参考資料	59



文部科学省

地(知)の拠点

学長 挨拶

現在、社会・経済・文化のグローバル化、産業の国際競争の激化、少子高齢化による人口減少、地域コミュニティの衰退など多様な課題が山積しています。その縮図として青森県でも同様の課題をより深刻なかたちで抱えており、一つの処方箋だけではなかなか対応できない状況が現出しています。

一方、このような状況下において、「知の拠点」としての大学が社会の発展に果たすべき役割は極めて大きく多様であり、同時に今後直面し想定される課題を踏まえた新しい大学像が求められ、国による「大学改革実行プラン」が強力に進められています。弘前大学も現在、「地域活性化の中核的拠点」の追求を基本に、教育改革、組織・ガバナンス改革など全学的な改革を進めているところです。

このたび、喜ばしいことに本学は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」に採択されました。COC (Center of Community)構想とは、「地域再生の核となる大学づくり」であり、弘前大学が目指す大学像とも大いに共鳴するものです。本事業への取組を推進力として、本学の教育・研究・社会貢献機能をつなげ、「地域を志向する大学」として一層の大学改革を進めてまいります。

本事業には、三村申吾青森県知事、葛西憲之弘前市長にもご賛同・ご参画いただけることとなりました。これから県内の行政関係者の皆さま、経済団体・企業関係者の皆さまをはじめ、多くの地域の皆さまとの連携を紡ぎながら、また学生諸君と志を共有しながら、取組を進めてまいります。

引き続き、ご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



弘前大学
学長

佐藤 敬

COC 推進室長 挨拶

弘前大学は、平成26年度から5年間にわたる、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」に採択されました。本学の事業名は「青森ブランドの価値を創る地域人財の育成」です。本事業を中心に、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献にわたる多様な取組を展開してまいります。

本事業は、人口減少等の課題を克服し、「青森ブランド」価値の創造を目指す青森県、「笑顔ひろさき」プロジェクトを進める弘前市と協働し、青森を愛する気持ち礎として新しい未来を切り開き、地域の産業・生活・社会システムに新たな価値を創造できる「人財」を育成することを目的としています。

このため、青森県・弘前市はじめ行政各部署、県内の経済団体や企業関係者、NPOなど県民・市民の皆さまとの机上ではない、実践的なネットワークをつくり、ご理解とご協力を得ながら、地域を志向したカリキュラム改革、地域課題にかかわる重点研究の推進、地域人材育成のための教育プログラムの開発・実施など、地域の課題と大学の資源をつなげ、全学的に地域再生・活性化に取り組めます。

私が、舵取り役としてCOC推進室長を仰せつかりました。地(知)の拠点となるべく、新しい領域やテーマにも果敢にチャレンジしてまいります。

皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。



弘前大学
理事（企画担当）・副学長

吉澤 篤

COC 推進室副室長 挨拶

大学の重要な使命のひとつに、研究や学問をとおして世界人類に貢献することがあげられます。弘前大学でもおおくの教員や学生たちが、日々研究・教育に邁進し、この目標を達成しようとしてきました。けれども、こうして学んだ学生のおおくが、青森県内に就職することなく県外に流出してきたことは、とても残念なことです。すぐれた若者を県内に留めおくことが、地域の未来にとって重要なのではないのでしょうか。

弘前大学には1学年1,382人の学生が在籍しています。青森県の18才人口が12,853人(2010年)ですから、1割強の若者が弘前大学に在籍していることになります。これらの学生が青森にとどまり、地域の課題に向きあうようになれば、青森の未来は必ず良くなるはずです。弘前大学は、青森を愛し、青森を知り、青森で活躍する、そんな学生を育てたいと思っています。

青森は日本のなかでも人口減少がとくに深刻な地域です。こうした地域課題を解決するためには、総合大学がもつ文系・理系の専門性を融合した知識が欠かせません。大学と自治体・産業界との協力も必要です。そして何よりも、学生の目を地域に向けさせるためには、地域の方々のお力添えが必要です。学生の心を揺さぶるのは、地域の方々の「生の声」だからです。地域で活躍される方々の声は、教員にとっても新たな発想の源となるでしょう。わたしたちは、大学のなかで閉じた教育をおこなうのではなく、地域に出かけ、地域の方々とともに研究・教育をしていきたいと考えています。

「地(知)の拠点」としての弘前大学に、ぜひご期待下さい。



弘前大学
副理事

曾 我 亨

「地域志向」大学改革宣言（学長宣言）



「地域志向」大学改革宣言（学長宣言）

今日、地域が抱える課題は一層多様・複雑化し、その解決のためには、広範な英知の結集が不可欠です。

こうした中、弘前大学は「知の拠点」となることが「地の拠点」につながると確信し、今後とも地域の課題解決に貢献する一層の取り組みを進め、「世界に発信し、地域と共に創造する弘前大学」を目指してまいります。

このため、以下の方針を本学の教職員、学生諸君と共有し、地域を志向した大学改革を推進することを、学長としてここに宣言いたします。

1. 地域の自治体、企業、経済団体、県民等と多様な連携関係を構築し、地域課題の解決に向けた取り組みを進めます
2. グローバルな視点を持って地域の課題を受けとめ、その解決に取り組む人材を育成します
3. イノベーションの創出に寄与する学際的研究、共同研究等を地域と共に進めます
4. 地域の人々の「学び直し」の機会を提供するとともに、学生が協働する地域活動を進めます
5. 大学の国際化を加速し、多様性（diversity）ある大学づくりを進めます

平成26年12月5日

弘前大学長

佐藤 敬

平成26年12月5日 青森地域COC推進協議会にて



「地域志向」大学改革宣言を読み上げる佐藤学長



握手を交わす佐藤学長㊦、三村青森県知事㊧、葛西弘前市長㊨



文部科学省

地(知)の拠点